

- 1985;14(11):1577-1585.
697. 根田幸. 家庭内暴力・登校拒否傾向の男子. 健康教室 1985;36(4):106-109.
698. 坂口正道. 青年前期に発症した精神分裂病の病像と予後 とくに初期薬物療法との関連について. 精神医学(0488-1281) 1985;27(4):399-408.
699. 三原竜介. 思春期 家庭内暴力, 校内暴力. Medical Way 1985;2(4):24-27.
700. 山崖俊子. 登校拒否と家庭内暴力. In: こころの科学(0912-0734); 1985; 1985. p. 82-89.
701. 秋原豊. 校内暴力の発生要因と抑制要因. 教育と医学(0452-9677) 1985;33(1):66-72.
702. 杉山登志郎, 本城秀次, 大石英二. 児童虐待へのチーム治療 治療チームを作成して治療を行なった1症例. 小児の精神と神経(0559-9040) 1985;25(3):183-189.
703. 星野仁彦, 新国茂, 金子元久. 登校拒否症の発症に関与する家族・社会的要因. 福島医学雑誌(0016-2582) 1985;35(4):413-423.
704. 石川敬子. 神経性食欲不振症者の性同一性発達について 健常者との生活史, ロールシャッハ(ロ)テストの比較による検討. 心身医学(0385-0307) 1985;25(5):395-402.
705. 石毛博. 覚せい剤依存受刑者の特性と依存形成要因についての調査研究. 犯罪心理学研究(0017-7547) 1985;22(2):35-50.
706. 倉林るみい. 思春期問題例における家庭内暴力群の特徴 入院事例を対象として. 社会精神医学(0388-2564) 1985;8(3):216.
707. 大淵憲一. 青年の怒りの経験 非行少年と高校生の比較(1) 攻撃反応を軸に. 犯罪心理学研究(0017-7547) 1985;22(特別):24-25.
708. 中村俊哉, 福島章. 青年期心性の心理測定学的研究(第3報) 投影法テストの分析. 上智大学心理学年報(0387-849X) 1985;9:17-31.
709. 中島聡. 人間学的診断の有用性 非定型精神病の1例をめぐって. 精神医学(0488-1281) 1985;27(4):389-398.
710. 渡辺位仲間いじめの病理. 千葉県医師会雑誌(0910-7436) 1985;37(2):93.
711. 二宮正人, 宿谷幸治郎, 岩井寛. 校内暴力をきっかけに発症した重症対人恐怖の1例. In: 神奈川県精神医学会誌(0288-9617); 1985; 1985. p. 61-65.
712. 武井楨次. 対教師校内暴力に関する社会心理学的研究(その1). 犯罪心理学研究(0017-7547) 1985;22(特別):10-11.
713. 福島章. 思春期・青年期の反抗と暴力. 周産期医学(0386-9881) 1985;15(2):249-252.
714. 平山順朗, 小山内幸, 植松和家. 透析患者の精神症状とその対応. 人工透析研究会会誌(0288-7045) 1985;18(3):301-308.
715. 木下悦子. 思春期神経性無食欲症の研究 摂食障害の臨床経過によって類型化された症例群と各症例群の精神力動的特徴. 精神神経学雑誌(0033-2658) 1985;87(9):601-633.
716. 和田起代子. 精神科外来における登校拒否家庭内暴力の治療 箱庭療法を通して. 通信医学(0387-1320) 1985;37(9):514.
717. 井上桂. 自己臭恐怖と自己視線恐怖の1男性症例 その10年間における家庭内暴力と患者家族関係の変貌について. 精神神経学雑誌(0033-2658) 1984;86(2):149-150.
718. 井上幸子. 暴力, 自傷行為のある登校拒否患者の看護 看護婦と家庭, 学校との関わりを通して. 思春期学(0287-637X) 1984;2(1):37.
719. 一谷彊, 西川満, 林勝造. バウムテストからみた中学生の非行と登校拒否-2-. 京都教育大学紀要 A 人文・社会 1984(通号 64):1-22.
720. 稲村博. 精神疾患へのアプローチ 家庭内暴力. In: 日本医事新報(0385-9215); 1984; 1984. p. 142-143.
721. 遠山官哉. 少年鑑別所にみる家庭内暴力のケースについて. 矯正医学(0452-974X) 1984;33(2-4):112.
722. 横田正雄, 佐藤牧人. PF スタディの反応を通して見た現代児童の性格特性. 心理測定ジャーナル(0301-0929) 1984;20(3):17-20.
723. 岡村敏弘. 少年から青年への心身発達とその障害 家庭内暴力が殺人事件まで至った事例. 日本医師会雑誌(0021-4493) 1984;91(4):673-677.
724. 皆川邦直. 登校拒否と家庭内暴力. からだの科学(0453-3038) 1984;別巻(こころの科学と人間):114-120.
725. 岩井寛, 渡辺直樹, 二宮正人. SI 両親イメージ・テストによる家族病理の解析 日独青少年の親子関係調査. 精神療法(0916-8710) 1984;10(4):352-363.
726. 吉田耕治. チックの子どもを持つ母親の夢分析. 精神療法(0916-8710) 1984;10(1):4-15.
727. 原野広太郎. 反・非社会性の教師評価とテスト評価. 心理測定ジャーナル(0301-0929) 1984;20(5):9-12.
728. 江幡玲子. 少年非行を考える 殺人・校内暴力・性非行を中心にして. 公衆衛生(0368-5187) 1984;48(5):339-343.
729. 高橋暁正. 粗暴で勉強ぎらいの子ども 合成着色料が原因. In: 薬のひろば(0286-8393); 1984; 1984. p. 9-20.
730. 高池俊子. 家庭内暴力少年の保護観察について. 矯正医学(0452-974X) 1984;33(2-4):86-88.
731. 高木隆郎. 登校拒否と現代社会. 児童青年精神医学とその近接領域(0289-0968) 1984;25(2):63-77.
732. 黒木宣夫. 家庭内暴力の1症例. 思春期学(0287-637X) 1984;2(1):51-58.
733. 今村洋子. 家庭内暴力をめぐって 矯正の立場から. 矯正医学(0452-974X) 1984;33(2-4):85-86.

734. 朔元洋. 学校不適応・家庭内暴力をきたした日系ブラジル人の少年. 児童青年精神医学とその近接領域(0289-0968) 1984;25(1):43-44.
735. 市川光洋, 三原竜介, 大島正浩. 登校拒否における家庭内暴力と身体愁訴. 臨床精神医学(0300-032X) 1984;13(2):215-222.
736. 室井誠一. 校内暴力に関する最近の調査・研究. 特殊教育学研究(0387-3374) 1984;22(1):34-37.
737. 小沢勲. 登校拒否論の変遷と〈家庭内暴力〉. 児童青年精神医学とその近接領域(0289-0968) 1984;25(2):89-92.
738. 松本真理子. 女子青年の性同一性に関する研究 ロールシャッハ・テストによる接近の試み. In: ロールシャッハ研究(0289-3177); 1984; 1984. p. 89-105.
739. 森岡由紀子, 瀧岡寿英, 十束支朗. Trichotillomania の心身医学的研究 児童・青年期に発症した症例について. 山形医学(山形大学紀要)(0288-030X) 1984;2(1):81-93.
740. 須永和宏. 家庭内暴力. 健康教室 1984;35(1):52-55.
741. 川上保之. 13 歳への質問 その攻撃性, 適応についての日本(横浜, 弘前)と西独の比較. 社会精神医学(0388-2564) 1984;7(3):211-212.
742. 前田慈照. 校内暴力非行少年の特性について. 矯正医学(0452-974X) 1984;33(1):35-36.
743. 大井正己, 木村明夫, 榎本和. 内因性うつ病像で発病した青年期の精神分裂病. 児童青年精神医学とその近接領域(0289-0968) 1984;25(3):160-171.
744. 大原健士郎, 三原竜介. 思春期の暴力と自殺. In: 小児科MOOK; 1984; 1984. p. 268-276.
745. 大蔵守夫. 家庭内暴力の実態について. 矯正医学(0452-974X) 1984;33(2-4):82-85.
746. 福水保郎. 思春期の危機 校内暴力. In: 精神科MOOK; 1984; 1984. p. 42-49.
747. 福地節子. 小児の治療時の外部行動表出の予測と心理検査に関する研究 高木坂本幼児・児童性格診断検査からの項目の選択について. 小児歯科学雑誌(0583-1199) 1984;22(1):76-86.
748. 北村陽英. 校内暴力・非行・犯罪. からだの科学(0453-3038) 1984; 別巻(こころの科学と人間):121-129.
749. 本城秀次. 登校拒否児における家庭内暴力の意味について. 児童青年精神医学とその近接領域(0289-0968) 1984;25(1):54.
750. 野沢栄司. 思春期の危機 親との抗争. In: 精神科MOOK; 1984; 1984. p. 50-56.
751. 伊藤啓介. 攻撃行動ととじこもり行動を示した子どもの一症例. In: 精神保健(0912-6589); 1983; 1983. p. 38.
752. 稲村博. 思春期の新しい精神障害 思春期挫折症候群. 精神療法(0916-8710) 1983;9(2):158-169.
753. 加室弘子. 家庭内暴力の臨床的研究(その 2) 形式要因からみた類型化の試み. 児童青年精神医学とその近接領域(0289-0968) 1983;24(1):44-45.
754. 外山知徳. 登校拒否・家庭内暴力と住空間の関係について. 精神神経学雑誌(0033-2658) 1983;85(12):899.
755. 梶原太郎. 学校保健における精神衛生の課題 校内暴力問題をめぐって 学校保健研究者の立場から. 学校保健研究(0386-9598) 1983;25(4):165-168.
756. 近藤正春, 田代実. 性格特性から読む問題傾向の早期発見 PST による共通理解と指導と指導実践例. 心理測定ジャーナル(0301-0929) 1983;19(10):15-22.
757. 古賀靖之. 家庭内暴力と校内暴力が同時に出現した症例への危機介入. 九州神経精神医学(0023-6144) 1983;29(3-4):401.
758. 高頭忠明. 家庭内暴力について. 小児の精神と神経(0559-9040) 1983;23(1):52.
759. 高木清. ある家庭内暴力の事例から. 犯罪心理学研究(0017-7547) 1983;20(特別):94-95.
760. 高木隆郎. 登校拒否と家庭内暴力(その 1) 「登校拒否」学事始めとモデルの提案. Modern Medicine(0386-9741) 1983;12(4):95-98.
761. 高木隆郎. 登校拒否と家庭内暴力(その 2) 登校拒否はなぜ増えてきたか. Modern Medicine(0386-9741) 1983;12(5):105-110.
762. 佐藤公治. 意思決定事態における反応の確実性の基準の差異としての認知的熟慮性-衝動性. 教育心理学研究 1983;31(3):186-194.
763. 佐藤達彦. 会食不能症状群 吐気を訴える青年. 臨床精神病理(0389-3723) 1983;3(2):193-204.
764. 坂本達子. 東京都児童相談所における被虐待児の実態(第 4 報) 家族内暴力としての児童虐待とその再発防止のための提言. 精神神経学雑誌(0033-2658) 1983;85(12):895.
765. 三原竜介. 登校拒否と家庭内暴力のかかわりについて. 児童青年精神医学とその近接領域(0289-0968) 1983;24(1):43-44.
766. 三原竜介, 大島正浩, 市川光洋. 登校拒否と家庭内暴力の関わり. 臨床精神医学(0300-032X) 1983;12(7):915-922.
767. 市川光洋. 登校拒否における家庭内暴力と身体症状の訴え. 心身医学(0385-0307) 1983;23(6):529.
768. 若林慎一郎, 大高一則, 阿部徳一郎. 神経症と児童青年精神科医療. 児童青年精神医学とその近接領域(0289-0968) 1983;24(3):186-195.
769. 舟田伸一郎. 家庭内暴力の実態とその社会的背景について(第二報) 特にその成因の考察. 精神神経学雑誌(0033-2658) 1983;85(12):899-900.
770. 十亀史郎. 家庭内暴力と登校拒否について. 日本精神病院協会雑誌(0286-0244) 1983;2(11):10-16.
771. 十倉利広. スクールモラールからみた校内暴力少年の特質. 犯罪心理学研究(0017-7547) 1983;20(特

- 別):74-75.
772. 小倉清. 思春期の臨床(10) 不登校・暴力を働き家出した高校生. 看護学雑誌(0386-9830) 1983;47(2):209-212.
773. 新石美恵子. 学校保健における精神衛生の課題 校内暴力問題をめぐって 養護教諭の立場から. 学校保健研究(0386-9598) 1983;25(4):157-160.
774. 仁科守郎. 絵画表現と知能・性格との関係. 心理測定ジャーナル(0301-0929) 1983;19(2):19-23.
775. 清俊夫. 対教師暴力非行の社会心理学的研究. 犯罪心理学研究(0017-7547) 1983;20(特別):76-77.
776. 西川祐一. 親の性的暴行. 小児看護(0386-6289) 1983;6(6):728-734.
777. 相川勝代. 登校拒否についての臨床的研究. 長崎医学会雑誌(0369-3228) 1983;58(4):321-342.
778. 増野肇, 小倉謙介, 会田元明. 家庭内暴力と危機介入. 臨床精神医学(0300-032X) 1983;12(5):567-574.
779. 弟子丸元紀, 室伏君士, 小笠原嘉祐. 重度精神遅滞児の精神運動性興奮について 臨床像の類型化の試み. 精神医学(0488-1281) 1983;25(10):1073-1081.
780. 天賀谷隆. 家庭内暴力をくり返す不登校児へのかかわり. 小児看護(0386-6289) 1983;6(8):987-992.
781. 田野稔郎. 家庭内暴力. 小児医学(0583-1180) 1983;16(1):60-77.
782. 飯田典子. 家庭内暴力の臨床的研究(その1) 家庭内暴力事例の特徴. 児童青年精神医学とその近接領域(0289-0968) 1983;24(1):44.
783. 富田竜夫. 思春期保健(その3) 暴力を振る中学生とその周辺. 保健の科学(0018-3342) 1983;25(5):326-328.
784. 北嶋道之. 存在感交流型の2例(家庭内暴力, 自閉性精神病質)への対応(カウンセリングとセラピーの集中的結合)について. 小児の精神と神経(0559-9040) 1983;23(3-4):193.
785. 本城秀次. 家庭内暴力を伴う登校拒否児の特徴について. 児童青年精神医学とその近接領域(0289-0968) 1983;24(5):337-353.
786. 木場清子. 家庭内暴力, 摂食障害, チック, 強迫行為を呈した登校拒否児とその母親面接の経験. 精神神経学雑誌(0033-2658) 1983;85(4):240.
787. 野田俊作. 家庭内暴力の薬物療法 Carbamazepine と抗精神病薬の併用. 心身医学(0385-0307) 1983;23(4):338-339.
788. 野田俊作, 坪井真喜子, 頼藤和寛. 家庭内暴力の薬物療法 Carbamazepine(Tegretol(R))と抗精神病薬の併用. 診療と新薬(0037-380X) 1983;20(3):549-555.
789. 鈴木広子. 「境界領域症状群」の精神医学的研究. 岩手医学雑誌(0021-3284) 1983;35(3):321-363.
790. 筈本孝雄, 谷口典男, 野田俊作. 家庭内暴力の薬物療法 カルバマゼピン(テグレトール)と抗精神病薬の併用. 精神医学(0488-1281) 1983;25(12):1295-1299.
791. 和田起代子. 精神科外来における不登校, 家庭内暴力の実態 精神療法的アプローチをした20例を通して. 通信医学(0387-1320) 1983;35(9):547.
792. 伊藤由紀子. 親の養育態度と子どもの性格. 心理測定ジャーナル(0301-0929) 1982;18(7):14-16.
793. 河合洋, 村上雅昭. 少年と暴力. 臨床精神医学(0300-032X) 1982;11(8):945-953.
794. 兄玉隆治. 保健所に来談する「家庭内暴力」について. 日本公衆衛生雑誌(0546-1766) 1982;29(10 附録):406.
795. 手島ちづ子. 思春期家庭内暴力 精神科外来でみられた症例の検討. 臨床精神医学(0300-032X) 1982;11(8):1025-1033.
796. 小田晋. 校内暴力への社会精神医学的視点. In: 日本教育心理学会回総会発表論文集; 1982; 1982. p. s9-s10.
797. 大賀達雄. 家庭内暴力の実態とその社会的背景について. 精神神経学雑誌(0033-2658) 1982;84(10):726.
798. 大山繁, 下地明友, 舛井幸輔. Werner 症候群の脳波異常と精神症状について. 精神医学(0488-1281) 1982;24(11):1177-1184.
799. 大島謙一. 重度精神発達遅滞児の不応行動の構造. 心理測定ジャーナル(0301-0929) 1982;18(9):12-20.
800. 大島正浩. 思春期の精神分裂病と暴力. 臨床精神医学(0300-032X) 1982;11(11):1383-1391.
801. 東順子. 家庭内暴力児から思春期閉症と診断された青年へのアプローチ デイケア活動におけるかかわりから. In: 日本看護学会回集録; 1982; 1982. p. 258-260.
802. 東由美子, 波多野礼子, 松永一郎. 夜尿児の心理特性について. 兵庫医科大学誌(0385-8219) 1982;11(1):33-45.
803. 内海健, 南光進一郎. 分裂病様症状を呈した Klinefelter 症候群の1例 その発達史と精神病理. 精神医学(0488-1281) 1982;24(11):1163-1168.
804. 飯野節夫. 登校拒否家庭内暴力・自閉症の食事療法. 輸液・栄養ジャーナル(0388-127X) 1982;4(6):627.
805. 野田このみ, 浅野史男, 土川登志子. 各種矯正装置の患者のパーソナリティ発達過程に及ぼす影響 顎内装置と顎外装置による差の検討. 日本矯正歯科学会雑誌(0021-454X) 1982;41(4):680-690.
806. 小出れい子, 馬場謙一, 今井明子. 身体像境界に関する発達的研究. ロールシャッハ研究(0289-3177) 1981;23:103-111.
807. 林勝造. 現代青年の社会的攻撃行動(「青年学」の試み(特集)). 教育と医学 1973;21(9):36-43.
808. 福田垂穂. 少年非行処遇に対するグループ・ワークの導入. 更正保護と犯罪予防 1968;9.

添付資料 2「青少年にかかわる調査報告書リスト」

青少年にかかわる調査報告書リスト[†]

1. ●「突発性攻撃的行動および衝動」を示す子どもの発達過程に関する研究：「キレル」子どもの成育歴に関する研究，発達過程研究会編 -- 発達過程研究会(国立教育政策研究所)，2002，187p.
2. ●家庭裁判所調査官研修所監修 重大少年事件の実証的研究，司法協会 2001.
3. スポーツ活動等を通じた青少年の健全育成に関する調査研究委員会報告書，自治総合センター，2001，68p.
4. ●21世紀を迎えての青少年健全育成の新たな取組，内閣府編 -- 財務省印刷局，2001，31，543p. -- (青少年白書：青少年問題の現状と対策；平成13年版)
5. ひょうごの青少年育成事業(活動)の概要，兵庫県青少年本部，2001，290p.
6. 低年齢少年の価値観等に関する調査，総務庁青少年対策本部編集 -- 大蔵省印刷局，2000，369p.
7. ●青少年の暴力親と非行に関する研究調査，総務庁青少年対策本部 [編] -- 総務庁青少年対策本部，2000，272p.
8. 青少年と携帯電話等に関する調査研究報告書，総務庁青少年対策本部 [編] -- 総務庁青少年対策本部，2000，142p.
9. 低年齢少年の価値観等に関する調査，総務庁青少年対策本部 [編] -- 総務庁青少年対策本部，2000，1，3，369p.
10. 「戦後」を超えて：青少年の自立と大人社会の責任(答申要旨)，青少年問題審議会，1999，6p.
11. 「戦後」を超えて：青少年の自立と大人社会の責任(答申)，青少年問題審議会，1999，52p.
12. ●非行原因に関する総合的研究調査，第3回. -- 総務庁青少年対策本部，1999，443p.
13. ●青少年白書のあらまし：青少年問題の現状と対策，大蔵省印刷局編集；平成10年版. -- 大蔵省印刷局，1999，38p. -- (白書のあらまし；28)
14. 都道府県青少年保護育成条例集，総務庁青少年対策本部，1999，315p.
15. 保護者と中・高生との比較からみた日本の青年，[総務庁青少年対策本部編] -- 総務庁青少年対策本部，1999，223p. -- (世界青年意識調査報告書；第6回II)
16. ●青少年とテレビ・ゲーム等に係る暴力性に関する調査研究報告書，総務庁青少年対策本部 [編] -- 総務庁青少年対策本部，1999，191p.
17. 自然体験活動中の安全対策，野外安全対策研究会，国立オリンピック記念青少年総合センター編 -- 国立オリンピック記念青少年総合センター”，1999，143p.
18. 勤労青少年の自由時間活用に関する調査結果報告書，労働省労政局勤労者福祉部 [編] -- 労働省労政局勤労者福祉部，1999，142p. -- (勤労青少年調査資料；第13集)
19. ●青少年の非行等問題行動に関する世論調査，平成10年4月調査. -- 内閣総理大臣官房広報室，1998. -- (世論調査報告書)
20. 青少年の薬物認識と非行に関する研究調査，総務庁青少年対策本部 [編] -- 総務庁青少年対策本部，1998，558p.
21. ドイツにおける子どもたちの自由時間に関する調査：文部省委嘱調査，青少年教育活動研究会編集 -- 青少年教育活動研究会，1998，42p.
22. 青少年とパソコンなどに関する調査研究報告書，総務庁青少年対策本部，1998，155p.
23. 幼児・児童・生徒の学校外活動実態調査報告書：文部省委嘱調査，青少年教育活動研究会編集；平成9年9月調査. -- 青少年教育活動研究会，1998，134p.
24. ●問題行動への対策を中心とした青少年の育成方策について：中間まとめ，青少年問題審議会 [編] -- 青少年問題審議会，1998，12p.
25. ●登校拒否等青少年の問題行動に関する調査研究報告書，国立オリンピック記念青少年総合センター調査連絡課編集 -- 国立オリンピック記念青少年総合センター調査連絡課，1998，116p.
26. 青少年教育施設調査報告書：事業運営に関する調査，国立オリンピック記念青少年総合センター編集；平成9年，平成12年. -- 国立オリンピック記念青少年総合センター”，1997.
27. 日本の青少年の生活と意識：青少年の生活と意識に関する基本調査報告書，総務庁青少年対策本部編；[第1回調査]，第2回調査. -- 大蔵省印刷局”，1997.
28. 体力づくり事業の参加者による評価方法の確立に関する調査研究報告，平成9年4月. -- 総務庁青少年対策本部，1997，83p. -- (体力づくり国民運動推進に関する調査研究)
29. 青少年教育施設における大学生の教育実習受入れシステムに関する調査研究報告書，青少年教育施設研究会，国立オリンピック記念青少年総合センター編 -- 青少年教育施設研究会：国立オリンピック記念青少年総合センター”，1997，82p.
30. ●青少年の非行にみる最近の傾向<薬物>，神奈川県青少年総合研修センター，1997，70p. -- (青少年関係調査研究報告書；no.21)
31. 情報化社会と青少年：第3回情報化社会と青少年に関する調査報告書，総務庁青少年対策本部編 -- 大蔵省印刷局，1997，433p.
32. 青少年の情報通信を活用したコミュニケーションに関する調査結果報告書，総務庁青少年対策本部 -- [総務庁青少年対策本部]，1997，212p.

[†] 暴力，問題行動，非行および自殺等の青少年問題に関わりの深いと考えられる資料・報告書に●印を付した。

33. ㊦青少年の消費行動と非行に関する研究調査，総務庁青少年対策本部〔編〕-- 総務庁青少年対策本部，1997，151p.
34. ㊦青少年の友人関係と問題行動に関する研究調査，総務庁青少年対策本部〔編〕-- 総務庁青少年対策本部，1997，147p.
35. 幼児・児童・生徒の学校外活動実態調査報告書，国立オリンピック記念青少年総合センター編 -- 国立オリンピック記念青少年総合センター，1997，119p.
36. 総務庁青少年国際交流事業既参加外国青年の意識と事後活動に関する実態調査報告書，総務庁青少年対策本部，1997，115p.
37. 日本の青少年の生活と意識：青少年の生活と意識に関する基本調査報告書，総務庁青少年対策本部〔編〕；〔第1回〕，第2回。-- 総務庁青少年対策本部”，1996.
38. 子供と家族に関する国際比較調査報告書，総務庁青少年対策本部編 -- 大蔵省印刷局，1996，7，445p.
39. ㊦青少年の深夜はいかいをなくそう：望ましい生活リズムの確立のために：意見具申，沖縄県青少年問題協議会〔編〕-- 沖縄県青少年問題協議会，1996，45p.
40. 健康・体力の維持と筋骨量等の関係に関する調査研究報告，平成8年3月。-- 総務庁青少年対策本部，1996，29p。--（体力づくり国民運動推進に関する調査研究）
41. 青少年と電話などに関する調査研究報告書，総務庁青少年対策本部，1996，241p.
42. ㊦青少年の学歴観と非行に関する研究調査，総務庁青少年対策本部〔編〕-- 総務庁青少年対策本部，1996，203p.
43. 青少年教育施設における学校利用促進に関する調査研究報告書，青少年教育施設研究会，国立オリンピック記念青少年総合センター編 -- 青少年教育施設研究会：国立オリンピック記念青少年総合センター”，1996，117p.
44. 現代の青少年：自立とネットワークの技法，柴野昌山著 -- 改訂版。-- 学文社，1995，viii，234p.
45. 子供と家族に関する国際比較調査報告書，総務庁青少年対策本部〔編〕-- 総務庁青少年対策本部，1995，7，445p.
46. “諸外国における青少年施策等に関する実態調査報告書，オーストラリア・ニュージーランド”，総務庁青少年対策本部，1995，60p.
47. 青少年教育施設におけるボランティアの養成と活動について：調査報告書，国立オリンピック記念青少年総合センター編 -- 国立オリンピック記念青少年総合センター，1995，54p.
48. 健康・体力の維持と体脂肪量等の関係に関する調査研究報告，平成7年3月。-- 総務庁青少年対策本部，1995，36p。--（体力づくり国民運動推進に関する調査研究）
49. 青少年団体等の国際交流事業に関する調査報告書，国立オリンピック記念青少年総合センター編 -- 国立オリンピック記念青少年総合センター，1995，36p.
50. 青少年の意識の変化に関する基礎的研究：「青少年の連帯感などに関する調査」第1回～第5回の総括，総務庁青少年対策本部〔編〕-- 総務庁青少年対策本部，1995，255p.
51. 青少年と自動販売機等に関する調査研究報告書，青少年環境問題調査研究会（代表：麦島文夫）〔調査担当〕-- 総務庁青少年対策本部，1995，221p.
52. 現代青少年の発達課題に関する研究調査：生活体験と非行との関係を中心として，総務庁青少年対策本部〔編〕--〔総務庁青少年対策本部〕，1995，140p.
53. 地域における体力づくりイベントへの参加阻害要因に関する調査研究報告，平成6年3月。-- 総務庁青少年対策本部，1994，96p。--（体力づくり国民運動推進に関する調査研究）
54. 大都市青少年の余暇と自由時間に関する調査，東京都生活文化局女性青少年部青少年課編 -- 東京都生活文化局女性青少年部青少年課，1994，359p。--（東京都青少年問題調査報告書）
55. 青少年とアダルトビデオ等の映像メディアに関する調査研究報告書，総務庁青少年対策本部，1994，322p.
56. ㊦情報化社会における非行少年の意識に関する研究調査，総務庁青少年対策本部〔編〕--〔総務庁青少年対策本部〕，1994，146p.
57. 青少年とボランティア活動：「青少年のボランティア活動に関する調査」報告書，総務庁青少年対策本部編 -- 大蔵省印刷局，1994，134p.
58. 情報化社会と青少年に関する調査：詳細集計報告書，総務庁青少年対策本部〔編〕；第2回。-- 総務庁青少年対策本部，1993，98p.
59. 青少年の仲間集団への帰属意識に関する研究，神奈川県青少年総合研修センター，1993，52p。--（青少年関係調査研究報告書；No.12）
60. 青少年をとりまくメディアに関する調査：「マルチメディア時代における青少年の生活文化の変容に関する調査」報告書，東京都生活文化局女性青少年部青少年課編 -- 東京都生活文化局，1993，372p。--（東京都青少年問題調査報告書）
61. 情報化社会と青少年：「第2回情報化社会と青少年に関する調査」報告書，総務庁青少年対策本部編 -- 大蔵省印刷局，1993，318p.
62. 青少年とポルノコミックを中心とする社会環境に関する調査研究報告書，総務庁青少年対策本部，1993，293p.
63. 青少年の規範意識形成要因に関する研究調査，総務庁青少年対策本部〔編〕-- 総務庁青少年対策本部，1993，194p.
64. ㊦青少年に関する意識調査研究報告書，山口県青少年問題協議会専門委員会〔編〕-- 山口県青少年

- 問題協議会専門委員会, 1993, 139p.
65. 男女青少年団体概況, 文部省社会教育局編 -- 日本図書センター, 1993, 115, 110, 120p. -- (近代日本青年期教育叢書; 第7期 . 基礎資料編; 第9巻)
 66. 地域における体力づくりイベントへの参加動機と継続意欲に関する調査研究報告, 平成4年3月, 11; 平成5年3月. -- 総務庁青少年対策本部, 1992. -- (体力づくり国民運動推進に関する調査研究)
 67. 親の意識に関する世論調査, 平成4年1月調査. -- 内閣総理大臣官房広報室, 1992. -- (世論調査報告書)
 68. 情報化社会と青少年: 「第2回情報化社会と青少年に関する調査」報告書, 総務庁青少年対策本部, 1992, 4, 318p.
 69. 青少年指導者必携, 青少年問題研究会編 -- 改訂5版. -- 青少年問題研究会, 1992, 198p.
 70. ●非行少年の社会的自立の阻害要因に関する研究調査: 非行少年の認知面を中心として, 総務庁青少年対策本部 [編] -- 総務庁青少年対策本部, 1992, 143p.
 71. 都道府県青少年保護育成条例集, 平成4年版. -- 青少年問題研究会, 1992, 13, 1139p.
 72. ●各国の少年非行とその対策に関する調査研究, 総務庁青少年対策本部 [編] -- 総務庁青少年対策本部, 1991, 74p.
 73. 中学生の母親: アメリカの母親との比較: 「青少年の校外活動と家庭に関する国際比較調査」報告書, 総務庁青少年対策本部 [編] -- 総務庁青少年対策本部, 1991, 305p.
 74. 青少年の友人関係: 「青少年の友人関係に関する国際比較調査」報告書, 総務庁青少年対策本部 [編] -- 総務庁青少年対策本部, 1991, 2, 176p.
 75. ●非行少年の友人関係に関する研究調査: 非行少年の家族的特性を中心として, 総務庁青少年対策本部 [編] -- 総務庁青少年対策本部, 1991, 156p.
 76. 青少年の福祉意識と行動に関する調査研究報告書: 子どもと親の家庭・地域における生活・交流実態を中心に, 21世紀ひょうご創造協会兵庫県家庭問題研究所 [編] -- 兵庫県, 1991, 132p. -- (家庭問題調査研究; 91-2 平成2年度)
 77. 青少年白書のあらし, 大蔵省印刷局編; 平成元年版 - 平成11年版. -- 大蔵省印刷局, 1990. -- (白書のあらし; 28)
 78. 国際シンポジウム現代社会と青年報告書: 世界青年意識調査(第4回)の結果を中心として, 総務庁青少年対策本部 [編] -- 総務庁青少年対策本部, 1990, 75p.
 79. 三重の青少年, [三重県青少年対策推進本部編]; 平成2年. -- 三重県青少年対策推進本部, 1990, 372p.
 80. ●非行原因に関する総合的調査研究報告書, 第2回. -- 総務庁青少年対策本部, 1990, 179p.
 81. 労働時間と運動・スポーツ実践との関連に関する調査研究報告, 総務庁青少年対策本部編; 平成2年3月. -- 健康・体力づくり事業財団, 1990, 109p. -- (体力づくり国民運動推進に関する調査研究)
 82. 青少年相談機関に関する全国ブロック連絡会議の結果概要, 昭和61年度-63年度, 平成4年度-5年度. -- 総務庁青少年対策本部, 1989.
 83. ●青少年問題調査年報, 第1号 - 第15号. -- 総務庁青少年対策本部, 1989.
 84. 世界青年意識調査詳細集計報告書, 第4回. -- 総務庁青少年対策本部, 1989.
 85. 少年の生活意識と実態に関する調査報告書: 基本的調査のモデルとして, 総務庁青少年対策本部, 1989, 98p.
 86. 共生社会に向けての青少年の役割と活動: 意見具申, 横浜市青少年問題協議会, 1989, 86p.
 87. アクティユースプラン: 平成元年度施策, 滋賀県青少年対策本部, 1989, 59p.
 88. 青少年の意識と行動等に関する調査報告書, 京都府福祉部女性青少年室青少年課編; 概要編. -- 京都府福祉部女性青少年室青少年課, 1989, 39p.
 89. ●青少年の健全育成をめざして: 青少年問題審議会10年の歩み, 総務庁青少年対策本部編 -- 大蔵省印刷局, 1989, 295p.
 90. ●現代の青少年問題の背景と対策に関する研究, 青少年問題対策研究会 [編] -- 伊藤忠記念財団, 1989, 190p. -- (伊藤忠記念財団調査研究報告書; 17)
 91. ●各都道府県における無職少年の非行防止対策の概要, [総務庁青少年対策本部], 1989, 187p.
 92. ”勤労青少年の職業観, 余暇観, その他生活意識等に関する調査: 報告書”, 滋賀県青少年対策本部, 1989, 144p.
 93. ●規範意識と非行の深化との関係についての研究調査, 総務庁青少年対策本部, 1989, 109p.
 94. ●非行少年の立ち直りに関する研究調査報告書, 総務庁青少年対策本部, 1988, 52p.
 95. 現代の若者たち-青少年と家庭 昭和62年度版青少年白書, 日本広報協会 編; 総務庁青少年対策本部 監修 -- 日本広報協会, 1988, 48p.
 96. 総務庁青少年国際交流事業の30年, 総務庁青少年対策本部, 日本青年国際交流機構 -- 総務庁青少年対策本部, 1988, 157p.
 97. 国際交流事業に参加した青年の意識と実態調査報告書, 総務庁青少年対策本部, 1988, 117p.
 98. 青少年相談機関一覧, 総務庁青少年対策本部編; 昭和62年版. -- ぎょうせい, 1987, 505p.
 99. 現代の若者たち-青少年のライフスタイル 昭和61年版青少年白書, 日本広報協会 編; 総務庁青少年対策本部 監修 -- 日本広報協会, 1987, 48p.
 100. ●アジア・太平洋諸国における少年非行の現状とその対策: アジア・太平洋諸国における非行防止に対する青少年団体の役割に関する研究調査報告書,

- 総務庁青少年対策本部編 -- 大蔵省印刷局, 1987, 4, 78p.
101. ④青少年白書: 青少年問題の現状と対策, 鳥取県企画部青少年婦人課編; 昭和61年版. -- 鳥取県企画部青少年婦人課, 1987, 235p.
 102. 青少年の性意識・性行動: 青少年の性意識・性行動等に関する調査報告書, 滋賀県青少年対策本部, 1987, 187p.
 103. 青少年の社会参加に関する世論調査, 昭和60年11月調査, 平成2年6月調査. -- 内閣総理大臣官房広報室, 1986. -- (世論調査報告書)
 104. 体力づくりに関する文献目録集, 総務庁青少年対策本部編; 2, 3. -- 総務庁青少年対策本部, 1986.
 105. 青少年とマスメディアとのかかわりに関する調査: 東京都青少年問題協議会調査報告書, 東京都生活文化局婦人青少年部企画課編 -- 東京都生活文化局, 1986.
 106. ④青少年健全育成シンポジウム: 青少年の生と死 -- いじめ: 報告書, 東京都生活文化局婦人青少年部健全育成課編; 昭和61年度. -- 東京都, 1986, 65p.
 107. ④現代の若者たち 青少年問題の現状と対策-青少年白書<昭和60年版>, 日本広報協会編; 総務庁青少年対策本部 監修 -- 日本広報協会, 1986, 40p.
 108. ④現代の若者たち-青少年問題の現状と対策<昭和60年版(青少年白書)>, 日本広報協会編; 総務庁青少年対策本部 監修 -- 日本広報協会, 1986, 40p.
 109. 国際青年年記念青年海外特派員報告書: 1985, 総務庁青少年対策本部, 1986, 203p.
 110. ④社会集団に対する青少年の適応状況と非行の深化に関する研究調査報告書, 総務庁青少年対策本部, 1986, 172p.
 111. ④低年齢非行少年に関する研究調査: 青少年問題研究調査報告書, 総務庁青少年対策本部, 1986, 155p.
 112. 家庭教育の基盤に関する調査報告書, 滋賀県青少年対策本部, 1986, 149p.
 113. 青少年の意識と行動等に関する調査報告書, 滋賀県青少年対策本部[編]; [昭和60年], [平成2年]. -- 滋賀総合研究所, 1985.
 114. 現代の青少年: 青少年の連帯感などに関する調査報告書, 総務庁青少年対策本部[編]; 第4回, 第5回. -- 総務庁青少年対策本部, 1985.
 115. ④"青少年問題シンポジウム報告書: 青少年と情報化社会: いま, そして21世紀に向かって", 東京都生活文化局婦人青少年部健全育成課編; 昭和60年度. -- 東京都, 1985, 62p.
 116. ④青少年非行に関する親の実態調査: 結果報告書, 神奈川県青少年指導者研修センター, 1985, 57p.
 117. 都道府県・指定都市の青少年対策の概況, [総務庁青少年対策本部], 1985, 329p.
 118. ライフスタイルとフィットネスに関する国際シンポジウム報告書, 総務庁青少年対策本部, 健康・体力づくり事業財団編 -- 総務庁青少年対策本部, 1985, 170p.
 119. 青少年と活力: 青少年の活力に関する研究調査報告書, 総務庁青少年対策本部編 -- 大蔵省印刷局, 1985, 165p.
 120. ④非行と家庭及び地域社会に関する研究調査, 総務庁青少年対策本部[編] -- 総務庁青少年対策本部, 1985, 136p. -- (青少年問題研究調査報告書)
 121. 青少年の活力に関する研究調査報告書, 総務庁青少年対策本部, 1985, 113p.
 122. 世界の青年との比較からみた日本の青年, 総務庁青少年対策本部[編]; 第3回 - 第6回[1]. -- 総務庁青少年対策本部, 1984. -- (世界青年意識調査報告書; 第3, 4, 5, 6[I]回)
 123. ④青少年非行に関する実態調査: 結果報告書, 神奈川県青少年指導者研修センター, 1984, 85p.
 124. 大阪府青少年健全育成事業の概要, 昭和59年度. -- 大阪府企画部青少年対策課, 1984, 81p.
 125. 青少年をめぐる家庭基盤の充実に関する調査研究, 総務庁青少年対策本部, 1984, 120p.
 126. 青少年保護育成条例の現状等について: 青少年保護育成条例研究会調査研究報告書, 総務庁青少年対策本部[編] -- 総務庁青少年対策本部, 1984, 115p.
 127. ④遊び型非行の特性に関する研究調査: 青少年問題研究調査報告, 総務庁青少年対策本部, 1983, 327p.
 128. ④凶悪な非行少年に関する研究調査: 青少年問題研究調査報告書, 総務庁青少年対策本部編 -- 総務庁青少年対策本部, 1983, 211p.
 129. 青少年指導者必携, 青少年問題研究会編 -- 改訂再版. -- 青少年問題研究会, 1983, 197p.
 130. 幼児をもつ母親の意識に関する調査, 総務庁青少年対策本部, 1983, 123p. -- (青少年問題研究調査報告書)
 131. 情報化社会と青少年: 情報化社会と青少年に関する調査報告書, [第1回] - 第4回(平成14年). -- 総務庁青少年対策本部, 1982.
 132. すこやかでしなやかな自我の形成を: 東京都における青少年非行とその対応の基本的方策: 東京都青少年非行問題対策委員会報告書, 東京都生活文化局婦人青少年部編 -- 東京都生活文化局広報部都民資料室, 1982, 91p.
 133. ④青少年非行の背景と対策, 斎藤幸俊〔ほか〕編 -- 勤労青少年グループワーク協会出版部, 1982, 554p.
 134. 国際比較青少年と家庭: 青少年と家庭に関する国際比較調査報告書, 総務庁青少年対策本部, 1982, 520p.
 135. ④不良行為少年の実態と対策に関する調査: 青少年問題研究調査報告書, 総務庁青少年対策本部編

- 総理府青少年対策本部, 1982, 333p.
136. ●青少年と暴力に関する研究調査: 直轄調査, [総理府青少年対策本部], 1982, 233p.
 137. 青少年行政の変遷: 昭和20年-昭和55年, 総理府青少年対策本部[編] -- [総理府青少年対策本部], 1982, 212p.
 138. 都道府県青少年保護育成条例集, 総理府青少年対策本部編 -- 総理府青少年対策本部, 1982, 18, 1079p.
 139. ●青少年と暴力に関する研究調査: 委託調査, [総理府青少年対策本部], 1982, 159p.
 140. 現代の青少年: 青少年の連帯感などに関する調査報告書, 総理府青少年対策本部編; [第3回], 第4回, 第5回. -- 大蔵省印刷局, 1981.
 141. 世界青年意識調査細分析報告書, 総理府青少年対策本部編; 第2回 - 第6回. -- 総理府青少年対策本部, 1981.
 142. 青少年施設における主催事業の実態調査報告書, 国立オリンピック記念青少年総合センター, 1981, 67p.
 143. 国際比較日本の子供と母親: 国際児童年記念調査最終報告書, 総理府青少年対策本部編 -- 大蔵省印刷局, 1981, 644p.
 144. いまの青年・いまの大人: 青少年の社会性と個性に関する研究調査報告書, 総理府青少年対策本部編 -- 大蔵省印刷局, 1981, 405p.
 145. 10年前との比較からみた現代の青少年: 青少年の連帯感などに関する調査報告書, 総理府青少年対策本部編 -- 大蔵省印刷局, 1981, 391p.
 146. ●欧米諸国の少年非行とその対策に関する研究調査: 青少年問題研究調査報告書, 総理府青少年対策本部, 1981, 248p.
 147. ●女子非行の特性と動向に関する研究調査, 総理府青少年対策本部[編] -- 総理府青少年対策本部, 1981, 213p. -- (青少年問題研究調査報告書)
 148. ●子どもの自殺防止のための手引書, 総理府青少年対策本部編 -- 大蔵省印刷局, 1981, 17, 291p.
 149. にしのみやの青少年: 青少年の意識と現状, [西宮市青少年対策本部編] -- 西宮市, 1981, 144p.
 150. ●校内暴力事件はなぜ起こる: その要因と対応策 青少年指導者・教師のための手びき, 青少年育成国民会議, 1981, 126p.
 151. ●青少年問題に関する文献集, 総理府青少年対策本部編; 第10巻 - 第32巻. -- 総理府青少年対策本部, 1980.
 152. 国際児童年の記録, 総理府青少年対策本部[編] -- 総理府青少年対策本部, 1980, 6, 471p, 図版20p.
 153. ディスコに出入りする青少年の実態調査, 総理府青少年対策本部, 1980, 54p.
 154. ●青少年の意識及び青少年の非行環境に関する調査, 青森県, 1980, 327p.
 155. ●非行集団の特性に関する研究調査, 総理府青少年対策本部, 1980, 250p.
 156. 国際比較日本の子供と母親: 国際児童年記念調査中間報告書, 総理府青少年対策本部編 -- 大蔵省印刷局, 1980, 235p.
 157. 青少年の職業指向: 日本・米国の青少年の比較調査, 総理府青少年対策本部[編] -- [総理府青少年対策本部], 1980, 181p. -- (青少年問題研究調査報告書)
 158. 現代日本の児童のパーソナリティ形成とその変容に関する研究調査, 総理府青少年対策本部[編] -- 総理府青少年対策本部, 1980, 178p. -- (青少年問題研究調査報告書)
 159. ●青少年指導者必携, 青少年問題研究会編 -- 青少年問題研究会, 1980, 157p.
 160. ●家庭内暴力に関する調査研究, 総理府青少年対策本部[編] -- 総理府青少年対策本部, 1980, 136p. -- (青少年問題研究調査報告書)
 161. 家庭のしつけに関する調査, 総理府青少年対策本部編 -- 総理府青少年対策本部, 1980, 134p.
 162. 主要諸外国における青少年行政の比較研究調査, 総理府青少年対策本部[編] -- [総理府青少年対策本部], 1980, 130p. -- (青少年問題研究調査報告書)
 163. 青少年の社会参加における促進要因と阻害要因に関する調査研究, 総理府青少年対策本部, 1980, 101p.
 164. こうべの青少年基本調査報告書: 青少年の意識と生活態度, 神戸市市民局生活部青少年課編; [1], 2. -- 神戸市青少年問題協議会, 1979.
 165. ●青少年の自殺に関する研究調査, 総理府青少年対策本部, 1979, 70p.
 166. 組織で働く青少年の意識, 総理府青少年対策本部編 -- 大蔵省印刷局, 1979, 368p. -- (青少年問題研究調査報告書)
 167. 青少年の社会参加に関する研究調査報告書, 総理府青少年対策本部編 -- 総理府青少年対策本部, 1979, 355p.
 168. 世界の中の日本の青年: 国際シンポジウム報告書: 世界青年意識調査(第2回)を中心として, 総理府青少年対策本部編 -- 大蔵省印刷局, 1979, 281p.
 169. 非行原因に関する総合的調査研究, [総理府青少年対策本部], 1979, 275p. -- (青少年問題研究調査報告書)
 170. 雑誌等自動販売機に関する青少年の意識調査について: 青少年問題研究調査報告書, 総理府青少年対策本部 -- 総理府青少年対策本部, 1979, 122p.
 171. 世界の青年との比較からみた日本の青年: 世界青年意識調査報告書, 総理府青少年対策本部編; 第2回 - 第6回. -- 大蔵省印刷局, 1978.
 172. 若者人格論: 青少年の人格形成に影響を及ぼす諸要因に関する研究調査, 総理府青少年対策本部編 -- ぎょうせい, 1978, 386p.
 173. 組織で働く青少年の意識調査, 総理府青少年対策

- 本部[編] -- 総理府青少年対策本部, 1978, 370p.
-- (青少年問題研究調査報告書)
174. "青少年の人格形成に影響を及ぼす諸要因に関する研究調査: わが国の"若者人格論: 青少年問題研究調査報告書", 総理府青少年対策本部[編] -- 総理府青少年対策本部, 1978, 294p.
175. ④戦後における少年非行の態様と処遇対策の変遷, 総理府青少年対策本部, 1978, 196p. -- (青少年問題研究調査報告書)
176. 世界青年意識調査結果報告書: 中間報告, 第2回. -- 総理府青少年対策本部, 1978, 164p.
177. 我が国における青少年教育文化施設に関する調査研究, [総理府青少年対策本部編] -- 総理府青少年対策本部, 1978, 140p. -- (青少年問題研究調査報告書)
178. 青少年の社会的適応状況に関する基礎調査, 総理府青少年対策本部編 -- 総理府青少年対策本部, 1978, 117p. -- (青少年問題研究調査報告書)
179. ⑤東京都の中学校・高等学校における中途脱落生徒の実態と対策: 児童青少年健全育成の方策を探る, 現代青少年問題調査会[編] -- 伊藤忠記念財団, 1977, 64, 10p. -- (伊藤忠記念財団調査報告書; 2)
180. 企業における一般的雇用慣行及び職場の諸問題について: 青少年問題研究調査報告書, 総理府青少年対策本部[編] -- 総理府青少年対策本部, 1977, 125p.
181. ⑥卒業生調査: 青少年問題研究調査報告書, 総理府青少年対策本部[編] -- 総理府青少年対策本部, 1977, 111p.
182. 地域社会における青少年の社会参加とこれを実効あらしめるための諸条件について, 総理府青少年対策本部[編] -- 総理府青少年対策本部, 1977, 108p. -- (青少年問題研究調査報告書)
183. ⑦青少年問題審議会答申・意見具申集, 青少年問題審議会; 昭和51年6月. -- 総理府青少年対策本部, 1976, 81p.
184. 青少年の連帯感などに関する調査, 総理府青少年対策本部編; 第2回調査報告書. -- 大蔵省印刷局, 1976, 431p.
185. 青少年の非宿泊型余暇利用施設に関する六市の事例調査, 総理府青少年対策本部編 -- 総理府青少年対策本部, 1976, 307p.
186. 青少年の現状と対策, 秋田県民生部[編]; 1976年版. -- 秋田県民生部, 1976, 158p.
187. 青少年に対する成人の意識に関する調査, 内閣総理大臣官房広報室[編] -- 内閣総理大臣官房広報室, 1976, 143p. -- (世論調査報告書; 昭和51年7月調査)
188. 都道府県条例による有害指定一覧表(映画・映画公告・図書), 昭和49年7月~9月, 昭和49年10月~12月, 昭和50年4月~6月. -- 総理府青少年対策本部, 1975.
189. 社会規範調査報告書, 総理府青少年対策本部, 1975, 60p.
190. 青少年のルール観: 社会規範調査報告書, 総理府青少年対策本部編 -- 大蔵省印刷局, 1975, 2, 113p.
191. 滋賀の青少年, 滋賀県青少年対策室編; 昭和49年3月 - 平成13年度版. -- 滋賀県青少年対策室, 1974.
192. 青少年の生活と性情報など社会的要因との関連について, 総理府青少年対策本部[編] -- 総理府青少年対策本部, 1974, 118p.
193. 体力づくりに関する文献抄録集, 総理府国民体力づくり事業協議会[編]; 1, 2, 3. -- 総理府国民体力づくり事業協議会, 1973.
194. 世界青年意識調査報告書, 総理府青少年対策本部; [第1回]速報編. -- 総理府青少年対策本部, 1973.
195. 世界の若もの: 世界青年意識調査レポート, 総理府青少年対策本部 -- 大蔵省印刷局, 1973, p.
196. 青少年の社会性の発達に関する研究: 日常生活にみられる問題行動, 東京都総務局青少年対策部計画課, 1973, 90p. -- (東京都青少年問題調査報告書; 昭和47年度)
197. 世界の青年・日本の青年: 世界青年意識調査報告書, 総理府青少年対策本部編; 速報編. -- 大蔵省印刷局, 1973, 596p.
198. 昭和48年度日本青年海外派遣団(短期第1回)報告書: Japanese Youth Goodwill Mission, 総理府青少年対策本部, 1973, 241p.
199. 諸外国における青少年対策の概要, 総理府青少年対策本部, 1973, 163p.
200. 戦後の青少年行政の変遷, 総理府青少年対策本部, 1973, 150p.
201. 都道府県青少年保護育成条例集, 総理府青少年対策本部編 -- 総理府青少年対策本部, 1973, 14, 645p.
202. ⑧青少年の過保護型パーソナリティーの形成, 安倍北夫著 -- 東京都総務局青少年対策部計画課, 1972, 91p.
203. 青少年団体加入状況調査: 調査報告書, 総理府青少年対策本部, 1972, 388p.
204. 青少年の性意識, 総理府青少年対策本部編 -- 大蔵省印刷局, 1972, 310p. -- (青少年問題研究調査報告書)
205. 青少年施設に関する調査, 総理府青少年対策本部[編] -- 総理府青少年対策本部, 1972, 237p.
206. 戦後の青少年行政の変遷: 第2次検討案, 総理府青少年対策本部, 1972, 195p.
207. ⑨青少年問題に関する文献抄録集, 1 - 9. -- 総理府青少年対策本部, 1971.
208. 青少年の連帯感などに関する調査, 集計表(全国編), 調査報告書(全国編), 第2回調査報告書. -- 総理府青少年対策本部, 1971.
209. 青少年の連帯感などに関する調査: 調査報告書(速

- 報), 総理府青少年対策本部, 1971, 9, 239p.
210. ●青少年問題に関する委託研究調査結果の概要, 総理府青少年対策本部 [編]; 昭和 44 年度. -- 総理府青少年対策本部, 1971.
211. 今日の青少年: フランス青少年白書, フランス青少年スポーツ省 [編] -- 総理府青少年対策本部, 1971, 5, 394p. -- (海外の青少年; 45)
212. 青少年の連帯感などに関する調査, 奈良県青少年問題協議会・青少年育成奈良県民会議編 -- 編者, 1971, 154p.
213. 青少年の連帯感などに関する調査: (速報編), 千葉県青少年総合対策本部, 1971, 153p.
214. 勤労青少年の職場移動: 昭和 45 年度東京都青少年問題調査報告書, 東京都総務局青少年対策部計画課, 1971, 120p.
215. 青少年の連帯感などに関する調査集計結果のあらまし(速報編) / 滋賀県青少年対策本部 [編], 滋賀県青少年対策本部, 1971, 113p.
216. 勤労青少年の生活意識に関する調査報告書, 滋賀県青少年対策室 [編] -- 滋賀県青少年対策室, 1970, 77p.
217. 援助の必要な青少年: ドイツ連邦共和国のユースプラン, [ドイツ連邦共和国政府家庭青少年省編]; 総理府青少年対策本部 [訳] -- 総理府青少年対策本部, 1970, 50p. -- (海外の青少年; 45)
218. 勤労青少年の生活と意識: 後志地方における勤労青少年実態調査から, 北海道青少年婦人総合対策後志地方本部編; 昭和 45 年. -- 北海道青少年婦人総合対策後志地方本部, 1970, 333p.
219. 新潟県青少年健全育成総合対策実施計画(案), 昭和 46 年度. -- 新潟県青少年総合対策本部, 1970", 1970, 242p.
220. 青少年の文化について: 青年期特有の行動様式, 東京都総務局青少年対策部計画課編 -- 東京都総務局青少年対策部計画課, 1970, 2, 89p.
221. 職場レクリエーションの実態とその効果に関する研究, 総理府青少年対策本部 [編] -- 総理府青少年対策本部, 1970, 188p. -- (資料; 44 No.1)
222. 明るい未来への確認: 実践結果の第二次徹底分析, 新潟県青少年総合対策本部, 1970, 182p. -- (新潟県青少年健全育成実態調査報告書; '69)
223. 青少年のマス・コミ(特にテレビ)との接触状況調査, 内閣総理大臣官房広報室, 総理府青少年対策本部 [編] -- 内閣総理大臣官房広報室: 総理府青少年対策本部", 1969, 70p. -- (世論調査報告書)
224. 都市の青少年教育の実態調査報告書: 仙台地区, 日本青年館調査研究室, 1969, 54p.
225. 現代青少年の意識と行動の特質に関する研究, 総理府青少年対策本部 [編] -- 総理府青少年対策本部, 1969, 275p. -- (青少年問題研究調査報告書)
226. 青少年の意識と行動, 総理府青少年対策本部, 1969, 23p.
227. 出かせぎに関する調査報告書, 総理府青少年対策本部, 1969, 161p.
228. ●青少年問題に関する文献の調査, 総理府青少年対策本部, 1969, 149p.
229. ●非行少年の生活実態調査: 調査報告書, 総理府青少年対策本部, 1969, 139, 8p.
230. ●欧米各国における少年非行の実態とその対策に関する研究, 総理府青少年対策本部編 -- [出版者不明], 1969, 136p.
231. ●非行勤労青少年の転落過程に関する研究, 総理府青少年局, 1968, 86p. -- (青少年問題研究調査報告書)
232. 勤労青少年の消費・余暇行動と消費態度および労働倫理についての研究: 青少年問題研究調査報告書, 総理府青少年対策本部 [編] -- 総理府青少年対策本部, 1968, 83p.
233. 青少年資料の調査, 中央青少年団体連絡協議会, 1968, 473p.
234. 青少年によき明日を: 文献調査と理論構成, 新潟県青少年総合対策本部, 1968, 230p. -- (新潟県青少年健全育成実態調査報告書; '67)
235. 働く青少年の意識と行動: 一 中野区内小規模事業所(50 人以内)の実態一: 調査報告書, 昭和 43 年 2 月. -- 東京都中野区総務部青少年対策課, 1968, 182p.
236. かぎっ子の実態と対策に関する研究, 総理府青少年局 [編] -- 総理府青少年局, 1968, 124p. -- (青少年問題研究調査報告書)
237. 新工業地域における流入青少年の教育の組織化に関する研究: 青少年問題研究調査報告書, 総理府青少年局, 1968, 123p.
238. ●青少年白書: 青少年問題の現状と対策, 総理府青少年対策本部編; 1966 年版 - 平成 14 年版. -- 大蔵省印刷局, 1967.
239. 青少年における交通道徳意識発達過程に関する研究, 総理府青少年局, 1967, 98p. -- (青少年問題研究調査報告書; 41-4)
240. 青少年の余暇利用に関する研究, 総理府青少年局, 1967, 75p. -- (青少年問題研究調査報告書; 41-5)
241. 中小企業に従事する青少年集団意識の実態とその形成過程に関する研究, 総理府青少年局, 1967, 74p. -- (青少年問題研究調査報告書; 41-1)
242. 青少年の集団意識とその形成要因に関する研究, 総理府青少年局, 1967, 66p. -- (青少年問題研究調査報告書; 41-2)
243. ●青少年をまもるために: 非行の原因と対策に関する文献的調査, 新潟県青少年総合対策本部, 1967, 209p. -- (新潟県青少年健全育成実態調査報告書; '66)
244. 新潟県青少年総合対策基本計画, 新潟県青少年総合対策本部, 1967", 1967, 181p.
245. ●青少年問題に関する世論調査, 総理府青少年局 [編]; 昭和 42 年 3 月調査, 昭和 46 年 7 月調査. -- 総理府青少年局", 1967, 178p. -- (世論調査報告

- 書)
246. ㊦社会調査の手びき：青少年問題を中心として，総理府青少年局，1967，168p.
 247. 青少年のマス・コミ(特に映画)との接触状況調査の概要，総理府青少年局，1967，101p.
 248. ㊦青少年の自殺とその防止に関する研究，総理府中央青少年問題協議会 -- 総理府，1966，65p.
 249. ㊦少年非行の実態に関する調査結果報告書，総理府中央青少年問題協議会，警察庁保安局防犯少年課”，1966，270p.
 250. ㊦青少年非行に関する実態調査結果資料集，総理府青少年局，警察庁保安局[編] -- 総理府青少年局，警察庁保安局”，1966，267p.
 251. ㊦勤労青少年の職場適応と行動規範の形成および発達に関する研究，総理府中央青少年問題協議会[編] -- 総理府中央青少年問題協議会，1965，75p. -- (青少年問題研究調査報告書；40-5)
 252. ㊦青少年非行に関する研究報告書，[大阪府青少年問題研究会編]；昭和38年度。 -- 大阪府，1965，35p.
 253. ㊦青少年非行対策に関する意見，中央青少年問題協議会[著] -- [中央青少年問題協議会]，1965，26p.
 254. ㊦中流階層の青少年問題：いわゆる中流青少年非行への一つのアプローチ，東京都総務局青少年対策部計画課[編] -- 東京都総務局青少年対策部計画課，1965，203p. -- (青少年問題調査；昭和39年度)
 255. マス・コミと青少年に関する懇談会議事録，[第1次]，第2次。 -- 総理府中央青少年問題協議会事務局”，1964.
 256. 流入青少年実態調査報告書：東京都における青少年の流入状況とその後の生活環境・勤務条件について，[本編]，解説編。 -- 東京都総務局総務部青少年対策課”，1964.
 257. ㊦青少年問題特別地区活動結果報告，総理府中央青少年問題協議会[編]；[昭和37年度]，昭和38年度。 -- 総理府中央青少年問題協議会事務局”，1964.
 258. 欧米における青少年に有害なマス・コミ対策の概要，中央青少年問題協議会事務局，1964，84p. -- (中央青少協シリーズ；No.6)
 259. 青少年対策資料要覧，神奈川県青少年総合対策本部[編] -- 神奈川県青少年総合対策本部，1964，125p.
 260. ㊦青少年問題に関する研究調査報告書，中央青少年問題協議会編；第1部 - 第5部。 -- 中央青少年問題協議会，1963.
 261. ㊦欧米における青少年対策の概要，中央青少年問題協議会事務局，1963，2，187p. -- (中央青少協シリーズ；No.4 1963年)
 262. 勤労青少年に関する調査：働きながら学ぶ青少年について，中央青少年問題協議会[編] -- 中央青少年問題協議会，1962，311p.
 263. 青少年の生活と欲求：東京都における中・高校生の調査，大塩俊介[ほか]著 -- 青少年問題研究会，1962，210p.
 264. 社会環境調査報告書：不良住宅環境(スラム)における青少年の実態，総務局総務部青少年対策課[編] -- 東京都総務局総務部青少年対策課，1961，551p.
 265. 青少年とマス・コミ，総理府中央青少年問題協議会[編] -- 総理府中央青少年問題協議会，1961，136p.
 266. ㊦青少年非行に関する研究報告書，大阪府青少年問題研究所[編]；昭和34年度 - 昭和38年度。 -- 大阪府青少年問題研究所，1960.
 267. ㊦山梨県青少年白書，山梨県青少年総合対策本部，山梨県青少年問題協議会編；昭和34年度版。 -- 山梨県青少年総合対策本部：山梨県青少年問題協議会”，1960，323p，折込図。 -- (青少年関係資料；第18)
 268. 青少年対策モデル地区特別調査報告書：塩釜市西部地区：青少年の性非行を中心に，宮城県青少年問題協議会[編]；昭和35年度。 -- 宮城県青少年問題協議会，1960，113p.
 269. 勤労青少年教育福祉調査報告書：中学校を卒業して就職した青少年はその後どのような生活を送っているか/群馬県青少年問題協議会[編]，群馬県青少年問題協議会，1959，48p.
 270. 青少年生活調査：地域活動の見地より見た分析，中央青少年問題協議会事務局編 -- 謄写版。 -- 中央青少年問題協議会事務局，1959，214p.
 271. ㊦青少年問題の現状と対策，中央青少年問題協議会事務局，1959，125p 図版。 -- (中央青少協シリーズ；第1)
 272. ㊦青少年問題実態調査報告書，北海道青少年問題協議会[編]；昭和32年度，昭和33年度。 -- 北海道青少年問題協議会”，1958.
 273. 青少年生活調査，三重県青少年問題協議会編；昭和32年度。 -- 謄写版。 -- 三重県青少年問題協議会，1958，57p.
 274. 青少年生活調査概要報告書：酪農地帯，北海道青少年問題協議会[編] -- [出版者不明]，1958，47p.
 275. 青少年の世界意識に関する調査報告書，日本ユネスコ国内委員会，1954，129p.
 276. 青少年の世界意識に関する調査報告書，日本ユネスコ国内委員会編；昭和28年3月調査実施，昭和29年3月調査実施。 -- 日本ユネスコ国内委員会”，1953.
 277. ㊦少年犯罪の計量的診断：少年保護事件に関する調査の実証的研究，中林利一[著] -- 司法研修所，1951，3，193p. -- (司法研究報告書；第4輯 第3号)
 278. ㊦青少年白書：青少年問題の現状と対策，総理府青少年対策本部[編]；昭和52年版 - 昭和56年版。 -- 総理府青少年対策本部.

279. 日本青年海外派遣団報告書，第 12 回 昭和 45 年度
- 第 35 回 1993. -- [総理府青少年対策本部].

分担研究

少年犯罪に関連する個人事象の因子検討に
資するためのデータベース作成に関する研究

(分担研究者 土井 徹, 分担研究者 曾根 智史)

「思春期における暴力行為の原因究明と対策に関する研究」班
平成14年度報告書

少年犯罪に関連する個人事象の因子検討に資するための
データベース作成に関する研究

国立保健医療科学院研究情報センター 土井 徹
国立保健医療科学院公衆衛生政策部 曾根智史

1. 目的

昨年度までの研究では、警察庁資料及び県別人口資料を用いて、少年犯罪に該当する年齢人口を「Population at Risk」として罪種別・県別の検挙人員対人口10万人割合を算出し、この割合の県別の相違と、県別の社会生活指標との関連を統計的に観察した。その結果、少年犯罪（14才—19才）と関連が深いと思われる社会環境要因が統計的に見いだされた（例えば、小学校時代の「長期欠席」等）。しかし、これは都道府県別の数値を使用した相関関係に基づくものであり、犯罪少年がそのような要因に暴露していたかどうかは不明である。本研究で私達が解明したいことは、犯罪少年に関連する要因を数多く調べるのではなく、犯罪少年が暴露した（させられた）要因と同じ要因を持っていても犯罪を起こさない少年も多数いるのは何故なのか、を探ることである。たとえば、母性・父性を喪失している家庭で育てられている少年は確かに犯罪に近いところにいるかも知れない。しかし、そのような家庭で育てられている少年が全て犯罪に至るわけではない。類似した社会環境に生きていても、犯罪に至る場合と至らない場合とを分ける要因は存在するのか、すなわち何らかの要因が予防的に作用しているのかを明らかにし、あるとすればその予防的要因を熟成する方向に持っていく方策を練ることが最終目標である。

このような研究には通常ケース・コントロール研究がまず実施される。青少年暴力の場合、ケースは犯罪少年とし、コントロールは犯罪を起こしていない少年とすることも可能だが、これでは要因の範囲が広すぎるので、統計的に相関の見られた特定の要因を持つ集団に限定して犯罪少年とそうではない少年をケースとコントロールにすることも考えられる。しかし、このような研究は現実的には困難である。それは、ケースとコントロールいずれの場合も様々な要因を調査することが困難なためである。様々な要因はプライバシーに深く関わることであり、真実をとらえにくい。また、ケース自体が特別の状況にあるので、ケースに関する調査には多数の関係諸機関の協力を得る必要がある。その尽力の大きさを考えると、ケース・コントロール研究を何度も実施することも困難である。

そこで今年度はケースに相当する人達を対象として今までに実施された各種の調査から、ケース個人の事象を抽出するための方法について検討した。

2. 方法

上記の目的を達成するための方法として以下のものを考えた。

(1) ケースに関して、既に公表されているオープン－エンディッドな文章（非定型文）を解析すること。このために、以下の2つを考えた。

- 1) 質的研究(qualitative research)の手法
- 2) 非定型文のデータ化

(2) ケースに関して公表された統計データを収集すること

このうち、今年度は(1)2)ならびに(2)について検討した。

3. 結果

(1) ケースに関する調査の非定型文としては、文部科学省委嘱研究「平成12～13年度「突発性攻撃的行動および衝動」を示す子どもの発達過程に関する研究」報告書（国立教育政策研究所内「発達過程研究会」研究代表者 富岡賢治）を資料とし、非定型文のデータ化を試みた。

表1は上記資料に記載されている調査結果の文章である。これを表2のように、「私」、「両親」、「兄弟姉妹」、「祖父母」、「学校では」という項目に分けて該当する内容を分類した。このような操作により、非定型の文章がデータとして扱いやすい形式になる。しかし、ここでの問題の1つはこの操作に要する時間がかかりかかるということ、そして2つ目の問題点は内容の分類に再現性があるかどうかということである。このような作業はEBM(Evidence Based Medicine)あるいはEBPH(Evidence Based Public Health)の際に実行されるアブストラクションフォームの作成に類似している。これは文献を読んで一定の形式、たとえば比較群は設定されているか否か、研究方法は妥当か等あらかじめ設定されている項目に印を付けたり、記載したりして研究の質を評価するためのアブストラクションフォームを作り上げるもので、EBM,EBPHいずれの場合も、内容を十分に理解できる専門職が担当する。本研究において使用した資料のデータ化には、教育、あるいは心理学の専門家は関与していないが、専門家ではなくてもこのようなフォームを作成するには項目を研究者が自由に設定できることが必要と考え、本年度はそのためのプログラムを開発した。

(2) このプログラムの要約は次のようなものである。

1)項目立ては例えば、「私」、「両親」、「兄弟姉妹」、「祖父母」、「学校では」等である。

2)これをA4版縦書きのシートに項目と該当内容が入るフォームを作成する。

3)データベースを作成する場合は該当内容を要約して、そのフォームに記入する。

4)これらの内容が完成した後、エクセルファイルに落とし、エクセルの諸機能が使えるようにする。

このプログラムは、テンプレート（アクセス使用）、管理ツール（JETエンジン使用）の2本から成り、最終的にエクセルファイルを作成する。

4. 考察

今年度開発したプログラムを使用すれば非定型文をデータ化する作業は、統一性が取れ、再現性も高まると期待できるが、労力はかなり必要となる。今までに実施されているケースに関する調査の生データを他の研究者が再利用できるシステムができあがれば、コントロールを収集する際の役にも立つし、様々なケース・コントロール研究を実施することができる。生データを他の研究者が利用できるようにする（提供する）ということは、その研究者にとって辛いことであり、個人情報保護や倫理指針の点で乗り越えなければならないことが多い。しかし、利用者による申請とそれに対する許可という従来行政機関の公的調査を目的外利用する際に実施されている諸手続を踏むことによって、再利用が可能なシステムができあがれば、犯罪に対する予防的要因を見つけ出す研究に寄与すること大と考えられる。

このような観点から、今後どのような統計を取り、あるいはどのような調査を行い、どのように限定的であるにしても公表されれば（あるいは再利用できるシステムにすれば）、上述の目的達成に近づくかを考えたい。

文献

1) 発達過程研究会：文部科学省委嘱研究「平成12～13年度「突発性攻撃的行動および衝動」を示す子どもの発達過程に関する研究—「キレる」子どもの成育歴に関する研究—」報告書（国立教育政策研究所内「発達過程研究会」研究代表者 富岡賢治）,2002

表1 非定型文の例(文献1)より引用)

ID番号	性	年齢	学校種	内容
03028033	女	15	中	<p>自分の生活態度への注意や、自己の欲求への拒否に直面するとカッとなり、暴言を吐き、母親や祖父母に暴力を振るう。現在の学校を「程度が低い」とバカにしている。生活態度が悪く学校では浮いた存在になっている。わがままであり、携帯電話の使用量が月数万円にのぼる。好きなときに好きなものを食べている。父親は子どもに対して放任、夫婦仲は悪く、後に離婚に至り、体面を気にする祖父母との同居となる。母親と祖母は、本人に対して過干渉である。母親は祖母に依存し、親としてまったく未成熟といえる。</p>
08012001	男	NA	中	<p>以前から兄弟げんかが派手で、仲裁に入った母親が肋骨を折ったこともある。兄の不当性を母親に訴えたところ、母親から「あなたたちのけんかの仲裁はしないときめたんだよ」と言われ、それに腹をたて、「みんなでおレのことをいじめる」と包丁を持ち出して暴れた。家具や柱に切りつけるため、母親が警察へ連絡し、パトカーが来た。兄が反抗期の間は、母親の聞き役をし「よい子」を演じていたが、兄が落ち着きを取り戻すにつれて、母親が兄とよい関係になってきたのがしゃくにさわっていたと思われる。困ったときにはべったり頼るのに、よくなれば離れていってしまう母親に不満を持ち、本人からは「お兄ちゃんと比べてみろよ」と母親に自分の優勢を認めてほしい発言がしばらく続いていた。学校では友達関係は悪くないが、男の先生とはうまくいかない。感情のコントロールがやや弱い。依存傾向が満たされておらず、欲求不満が多く、言葉での自己主張が弱い。両親の夫婦仲は悪く、父親と一緒に生活しながら「父親不在」の状態である。教育や育児はすべて母親まかせで、母親も子どもも父親を認めていない。母親は勉強や進学にかたよった育て方をしてきており、子ども(男の子)2人に私立中学校進学のため、勉強中心の生活を強いてきた。父親は警察を呼ぶ事態になっても、まだ、自分がなんとかせねばとは考えず、母親が子どものけんかを仲裁すべきだと考えていた。その反面、食事の後かたづけや、部屋のそうじがきちんとしていないことなど、細かい注意は繰り返している。家族でお互いを思いやるといった情緒的な面が育っていない。親と子どもとの間に境界がなく、親の権威がまったく働かない。父性が欠けており、生活のけじめができていない。</p>

表1(続き) 非定型文の例(文献1)より引用)

ID番号	性	年齢	学校種	内容
01041002	男	8	小	縄とびを貸さないといわれ、急に砂や石を持って投げようとした。逃げると追いかけて、うーと言い始め、体が堅くなり目つきが変わり、教師がとめると教師に対して足げり、暴言、職員室にある机、書棚を蹴飛ばした。自分の興味のあるものがあると怒っていても急に別人のようになる。自分だけのルールがあり、周りの子がそれを破ると怒る。自分の気持ち先になり、周りの人のことが考えられない。テレビゲームが大好きである。家庭での食事はチョコパンなど子どもが好きなものが中心で、野菜はほとんど食べない。父母ともに厳しく、言いつけを守らないと叩く。親は、「自分の子どもだけが悪いわけではない。興奮状況に追い込む学校が悪い」と子どもの前で担任に言う。家の跡取りという考え方があり、子ども中心に動いている。
01092003	女	12	小	それ以前にも遅刻をして教室に入れず、泣き止まなかったことがあるのであるが、その日も朝から気分が落ち込んでいたらしく、教室に入れずにいた。そのため、CDを渡す約束をしていたにもかかわらず、本人に会えずにいた友人が、持ち歩いていたCDを昼休みまでにどうにか渡そうとして、たまたま出会った先生に預けてしまった。授業等に不必要なものは禁止されているため、放課後、CDを先生が持っているを知った本人は、先生に叱られると思い悩み、ばったり会ったその友人の顔を見て突然切れパニックになり、コンパスの針をにぎりしめ、「私なんかいない方がいい」と暴れた。友人関係は少なく、おとなしいがまじめで熱心に活動するため教師の評価は高い。いじめられたり、いじめたりすることはないが、独特な自分の世界を持っており、それを快く思っていない生徒も一部にいるような感じである。マンガやアニメの世界に過度に入り込む傾向があり、時間を忘れて夜遅くまで起きているため、遅刻ぎりぎりに学校に来ることが多い。現実の世界と非現実の世界の区別がつかなくなるとときがあり、「こわい。誰か助けて」と妄想めいた発言をする。乱暴な言葉や過激な表現を発することがある。小学校時代、父親の仕事の関係で約2年半外国の日本人学校に通っていた。母親は教育に熱心であり、過干渉気味ではあるが一般的な家庭である。母親が本人の逸脱行動にブレーキをかける役割をしているが、現在、母親が病気で入院中であり不在である。本院は母親のことをとても心配している。

表2 非定型文のデータ化の例

ID番号	性	年齢	学校種	誰が	何を
03028033	女	15	中	私	母親や祖父母に暴力を振るう わがまま 携帯電話保持 好きな時に好きなものを食べている 祖父母と同居
				両親	夫婦仲は悪い 父親は放任 離婚 母親は過干渉 母親は祖母に依存し未成熟
				兄弟、姉妹	不明
				祖父母	体面を気にする 祖母は過干渉
				学校では	学校をバカにしている 生活態度が悪い 学校では浮いた存在
08012001	男	NA	中	私	包丁を持ち出して暴れる 母親が警察へ連絡しパトカーがきたことがある 兄が反抗期の時は「よい子」を演じる 感情のコントロールがやや弱い 依存傾向が満たされていない 欲求不満が多い 言葉での自己主張が弱い 生活のけじめがない
				両親	夫婦仲は悪い 同居していながら父親不在の状態 教育や育児は母親 母親は勉強中心の生活を強いる 母親は学歴重視 父親は細かい生活内の注意を繰り返す 家族でお互いの思いやりのない 親と子どもに境界がない 親の権威がない 父性が欠けている 生活のけじめがない
				兄弟、姉妹	兄は母親とよい関係 兄弟は不仲
				学校では	友達関係は悪くない 男の先生とうまくいかない
01041002	男	8	小	私	自分だけのルールがある 周りがそれに反すると怒る 自分の気持ちが先 テレビゲームが好き 食事は好きなもので野菜はほとんど食べない 家では自分中心
				両親	父母ともに厳しい いいつけを守らないと叩く 子どもは家の跡取りと考えている 子ども中心
				学校では	教師が注意すると教師に足蹴り、暴言、職員室にある机、書棚を蹴飛ばした
01092003	女	12	小	私	マンガやアニメの世界に過度に入り込む傾向あり 夜遅くまで起きている 小学校時代約2年半外国の日本人学校に通う 母親の入院を心配している
				両親	母親は教育熱心で過干渉ぎみであるが一般的な家庭 母親がブレーキをかける役割 現在母親は入院中
				学校では	友人関係は少ない おとなしいがまじめ 教師の評価はたかい 夜更かしのため遅刻ぎりぎりに学校に来る 現実と非現実の区別がつかなくなる時がある 乱暴な言葉や過激な表現を発することがある